

佐渡米通信

こめる

2023年 2月号

発行日:2023年2月

編集人:佐渡農業協同組合 営農振興部販売企画課 駒形(葵)
jasadoeinoubu20@dune.ocn.ne.jp

佐渡米カレンダーで計画

今年も「環境にやさしい佐渡米づくり」カレンダーが完成しました。恒例になりますが、表紙は佐渡の生きものたちで飾られています。カレンダーは月ごとに作業中の注意事項やポイントが掲載されており、米生産者の方々に配布されます。毎月の米作りの指標になるほか、指導会にも持参して資料として使われます。



今年、「環境にやさしい稲作のススメ」として生物多様性を生み出す豊かな田んぼづくりをキャッチフレーズとしました。

「プラスチック製の流出防止対策」を昨年は試験的に取り組み、今年はJA佐渡管内全体で取り組みを推進していきます。春作業ではプラスチック製の流出防止の内容が記載されています。



佐渡米カレンダー(3月ページ)

12月末の暴風雪災害による倒壊水稻育苗ハウスへの対策

昨年の12月末に佐渡島内で暴風雪災害により一部で育苗ハウス倒壊の被害が出ました。被害を受けられた皆様に対しまして心からお見舞い申し上げます。JA佐渡ではハウスを使用しない「露地育苗」技術の指針作りを始めており、生産者さんへの普及活動を推進していきます。



被害にあった育苗ハウス

既存の育苗技術を補うことで生産量・品質の安定化に努めてまいります。

JA佐渡 新規就農研修生にインタビュー

JA佐渡では2021年から農産物の安定供給を維持するために、新規就農制度を始めました。2022年4月に東京から移住し、6月から本制度の研修を受けながら2年後に独立を目指す兒玉理さん(28歳)をご紹介します。



昨年の秋に初めて刈取りをした様子

新型コロナウイルスの影響により、兒玉さんの以前勤めていた会社では在宅勤務が推奨され、自宅で時間を過ごすことが多くなり働き方を見直すキッカケとなったそうです。そうした折、佐渡にある祖父母の家の木を切る話があり、作業を通じて外で仕事をする喜びを感じたそうです。兒玉さんは自分で何かを作りそれをお客さんに届けることが何よりも醍醐味と感じるそうです。現在は佐渡で稼げる農業を構築し夢のある仕事であることを実現していきたいと力強く語られていました。

研修中では草刈りや田んぼでぬかるんだり、ちょっとしたアクシデントも含めて全てが新鮮で楽しいと嬉しそうにお話されていました。兒玉さんのまわりでは若い人が農業を仕事として選択する人が集まってきているように感じているというお話を伺いました。その求心力と頼もしさから今後の佐渡の農業に期待を感じさせてくれます。



研修を受けている(株)JAファーム内の兒玉さん

羽田空港でプロモーション活動

羽田空港にて佐渡農畜産物のプロモーション活動を行いました。このイベントは、トキエア株式会社との共同出展でした。会場では佐渡の農畜産物の販売を行うとともに、農薬や化学肥料に頼らない「環境にやさしい農業」を推進していることを紹介しました。

会場では佐渡の農畜産物が当たるアンケートも配布しました。回答については今後の販売促進に繋げていきます。



羽田空港内の様子



佐渡の特産品の販売



トキエアグッズ

《研修先》

株式会社JAファーム佐渡



JA佐渡の公式 Facebook「佐渡のたんぼにつき」で佐渡の情報が見られます。
<https://www.facebook.com/jasadotanbo>



JASADOTANBO